

## 臨床工学技士 (ME; Medical Engineer) の役割



臨床工学室主任 岡山 潤

臨床工学技士が誕生して20数年が経過しますが、他のコ・メディカルと比較しても歴史が浅く、まだまだ知名度が低い職種であると思われるので、今回当院の臨床工学技士の役割についてご紹介させていただきます。

臨床工学技士は、医療機器の保守管理を行う工学的業務と臨床における治療の一部を担う臨床業務という医療現場唯一の2つの異なる技能を持つ職種です。

当院の臨床工学室では、4名のスタッフで医療機器を中央管理し、安全で効率的な運用を行う医療機器管理業務、血液を体外循環させ体内不要物質や病因物質の除去を行う血液浄化業務、術中に心臓と肺の生命維持機能を一時的に代行

する人工心肺業務、循環器疾患における詳細な病態の把握や心機能を評価する診断装置の操作を行う心臓カテーテル検査室業務、肺に酸素を送り込み、炭酸ガスを排出する呼吸を代行する呼吸療法業務、各種委員会活動等を行っております。

また各領域で、透析技術認定士・呼吸療法認定士・第2種ME実力検定・認定ICLSインストラクター・AHA-BLSインストラクターなどの専門認定を取得し、専門性の高い技術・知識の提供を目指しております。

2007年の改正医療法により、改めて保守業務の重要性和義務化がいわれるようになりました。今や医療機関において医療機器の保守管理は重要な業務と

なっております。医療の高度化により医療機器も多種多様化しております。安全な医療・良質な医療を提供できるように、医療機器の信頼性・安全性を確保してチーム医療に貢献していきたいと思っております。



## お知らせ INFORMATION

### 病院機能評価 Ver.6 更新認定

【認定番号JC300-2】

【認定期間2009.9.27～2014.9.26】



昨年7月院長交代の直後、8月20日～22日に病院機能評価の更新受審を病院を挙げてのビッグイベントとして取り組みまし

た。部署の壁を越えて職員が団結して臨むことの大切さを実感することができました。

おかげさまでこのたび無事認定の通知をいただき、これからの病院運営にお

いてさらに医療の質の向上を目指し、患者さんにより良い医療を提供し選ばれる病院となるために、今後も職員一丸となって日々改善に邁進する契機としたいと存じます。

### 松山市民病院広報誌 『えいらい』

昨年8月に創刊し、今号で3号目となりました。広報誌『えいらい』は、年間4回発行の季刊誌です。松山市民病院の各科・部門紹介を中心に、情報盛り沢山でお届けしたいと思います。バックナンバーは当院ホームページよりご覧いただけますのでご利用ください。

広報誌に関するご意見ご感想は、松山市民病院広報委員会までお寄せください。

### 転倒予防対策チームの活動

日本看護協会出版会発行の日本看護協会機関誌『看護』（2010年Vol.62, No.2）で、「多職種チームで取り組む高齢患者の転倒・転落防止」の特集が組まれています。当院の転倒予防対策チームでは、『転倒予防対策チーム5年目の取り組み』と題し、活動と成果を紹介しております。



転倒予防対策チームの活動については、ホームページでも詳しく紹介しておりますので、どうぞご覧ください。